

2019年3月期 連結決算概況
2020年3月期 通期見通し

2019年5月10日
オリンパス株式会社
常務執行役員 CFO
境 康

免責事項

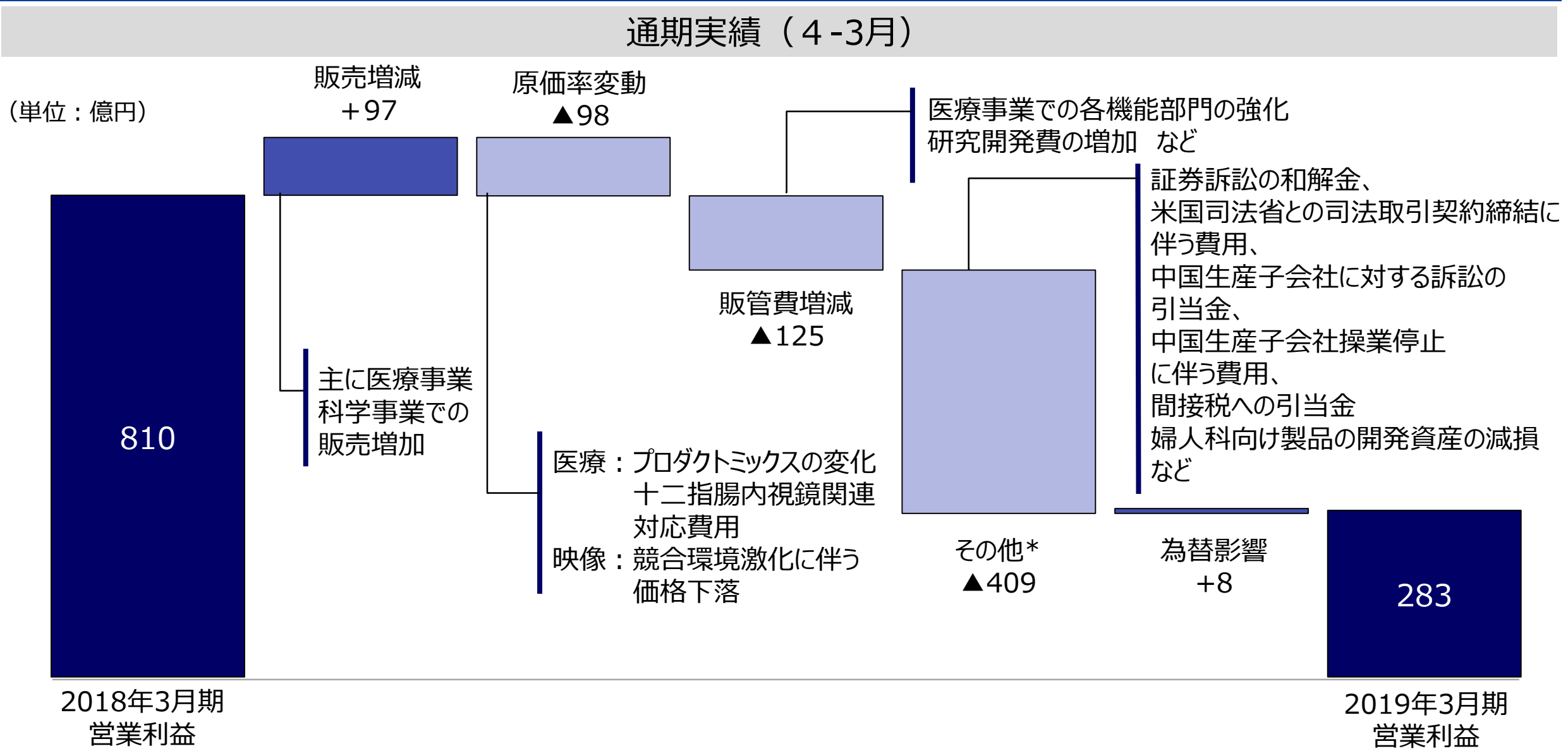
- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

2019年3月期 通期実績 ①連結業績概況

- ①前年比： 医療事業および科学事業が堅調に推移し、前年比1%増収
- ②前年比： 販管費の増加や一時費用の計上等により、減益
- ③見通し比 (2月8日公表)： 売上高は上回るも、利益面は原価率悪化や間接税への引当金等により下回る結果

(単位：億円)	通期実績 (4-3月)				為替影響 調整後	2019年3月期見通し (2月8日公表)	見通し比増減額	見通し比
	2018年 3月期	2019年 3月期	前年 同期比					
売上高	7,865	① 7,939	+1%	+1%	7,900	+39	0%	
売上総利益 (売上総利益率)	5,105 (64.9%)	② 5,096 (64.2%)	0%	0%	5,190 (65.7%)	▲94	▲2%	
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,266 (54.2%)	4,375 (55.1%)	+3%	+3%	4,380 (55.4%)	▲5	0%	
その他の収益および費用等	▲29	▲438	-	-	▲370	▲68	▲18%	
営業利益 (営業利益率)	810 (10.3%)	283 (3.6%)	▲65%	▲66%	③ 440 (5.6%)	▲157	▲36%	
税引前利益 (税引前利益率)	767 (9.7%)	201 (2.5%)	▲74%		390 (4.9%)	▲189	▲48%	
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	571 (7.3%)	81 (1.0%)	▲86%		260 (3.3%)	▲179	▲69%	
円/USドル	111円	111円			110円		2019年3月期年間配当 期末配当30円	
円/Euro	130円	128円			128円			

2019年3月期 通期実績 ①連結営業利益増減要因

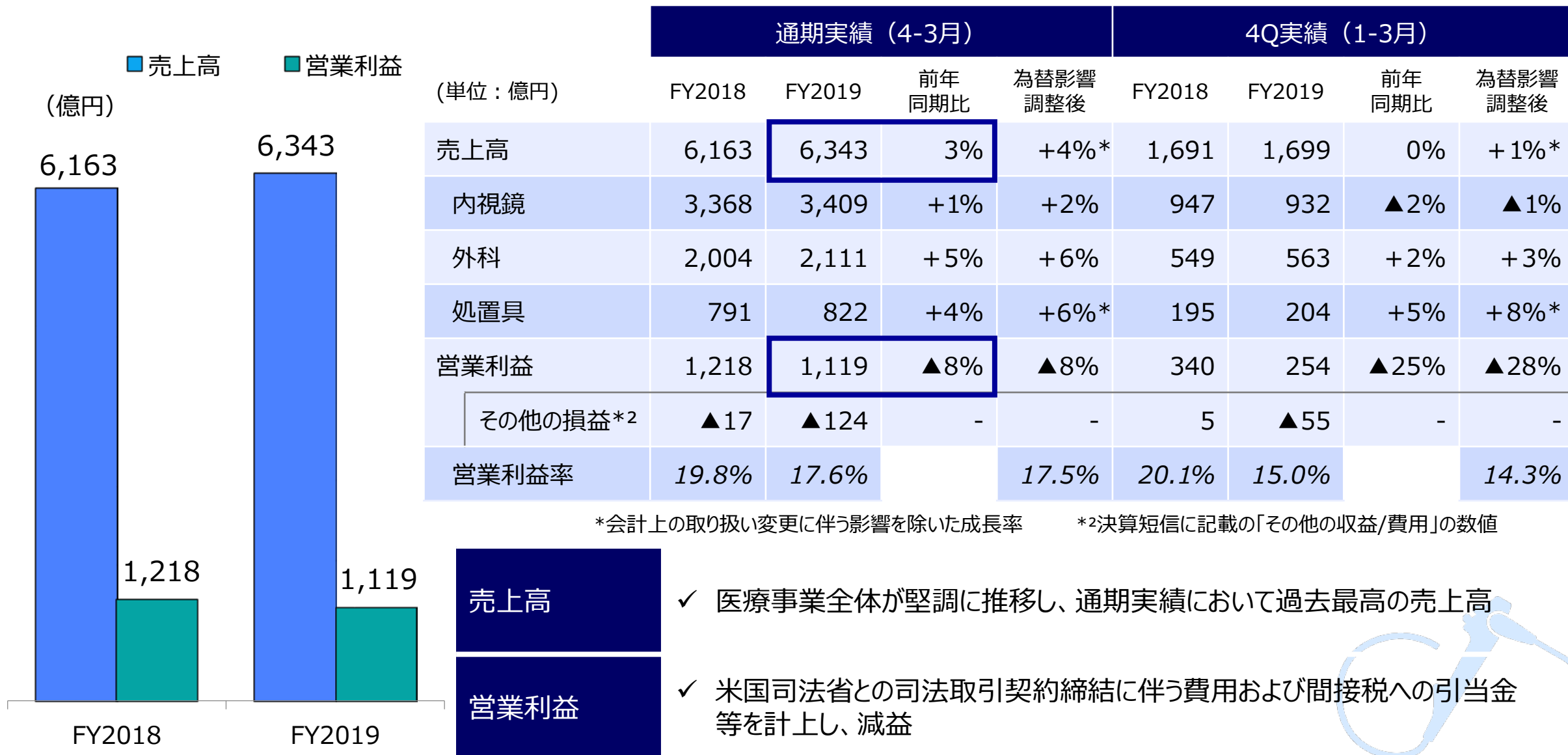


2019年3月期 通期実績 ②セグメント別概況

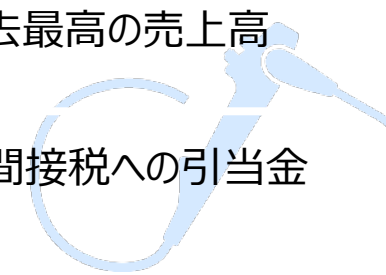
- ① 医療： 2期連続、過去最高の売上高を達成
- ② 科学： 高価格帯製品および新製品等の拡販により、増収増益
- ③ 映像： 生産子会社操業停止に伴う費用計上および競合環境激化により、営業損失を計上
- ④ 全社消去： 複数の一時的費用の計上により、昨年より大きく増加

(単位：億円)		通期実績 (4-3月)				4Q実績 (1-3月)			
		2018年3月期	2019年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2018年3月期	2019年3月期	前年同期比	為替影響調整後
医療	売上高	6,163	① 6,343	+3%	+3%	1,691	1,699	0%	+1%
	営業利益	1,218	1,119	▲8%	▲8%	340	254	▲25%	▲28%
科学	売上高	1,000	② 1,042	+4%	+5%	300	310	+3%	+3%
	営業利益	64	② 81	+27%	+24%	29	32	+9%	+5%
映像	売上高	603	③ 487	▲19%	▲19%	130	103	▲20%	▲20%
	営業損益	▲12	③ ▲183	▲171億円	▲172億円	▲27	▲51	▲24億円	▲26億円
その他	売上高	99	④ 67	▲32%	▲33%	24	16	▲31%	▲32%
	営業損益	▲50	④ ▲35	+14億円	+14億円	▲21	▲13	+8億円	+8億円
全社・消去	営業損益	▲410	④ ▲700	▲290億円	▲290億円	▲109	▲144	▲36億円	▲35億円
連結合計	売上高	7,865	7,939	+1%	+1%	2,144	2,128	▲1%	0%
	営業利益	810	283	▲65%	▲66%	212	77	▲64%	▲70%

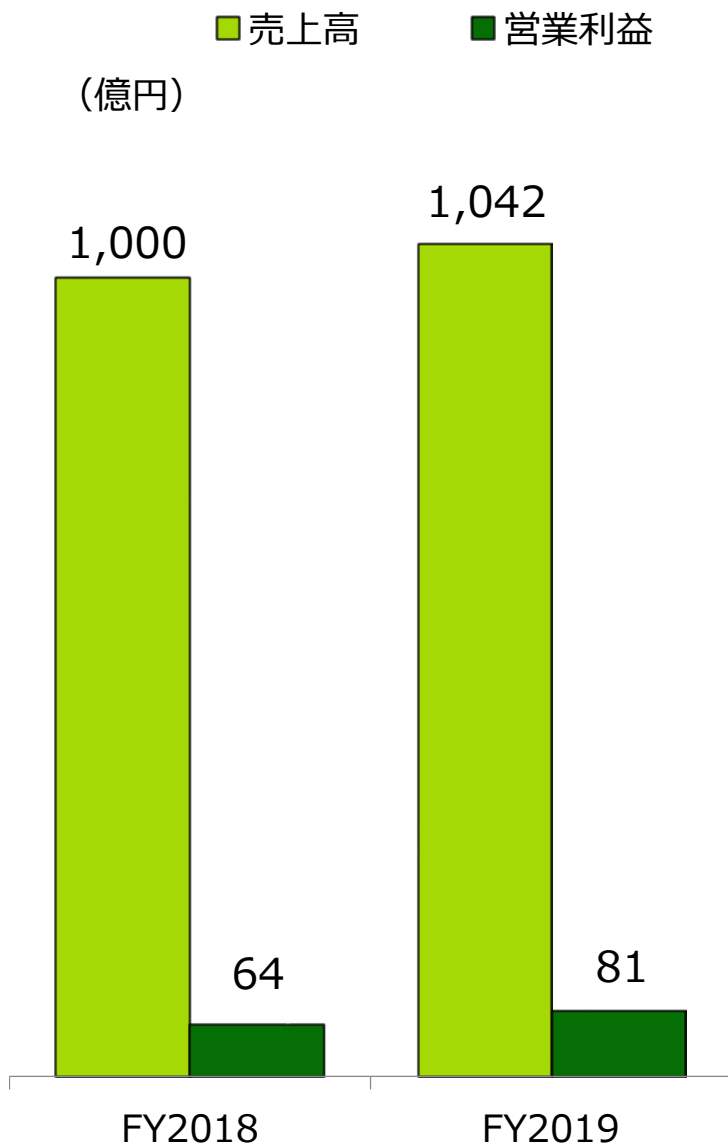
2019年3月期 通期実績 ③医療事業



- ✓ 医療事業全体が堅調に推移し、通期実績において過去最高の売上高
- ✓ 米国司法省との司法取引契約締結に伴う費用および間接税への引当金等を計上し、減益



2019年3月期 通期実績 ④科学事業



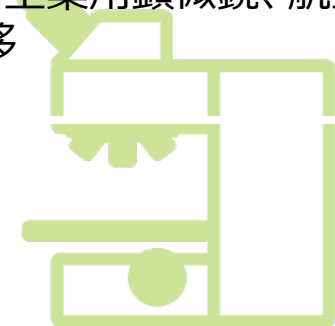
(単位：億円)	通期実績 (4-3月)				4Q実績 (1-3月)			
	FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後	FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,000	1,042	+4%	+5%	300	310	+3%	+3%
営業利益	64	81	+27%	+24%	29	32	+9%	+5%
その他の損益*	▲5	▲7	-	-	▲1	▲6	-	-
営業利益率	6.4%	7.8%		7.6%	9.7%	10.3%		9.8%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

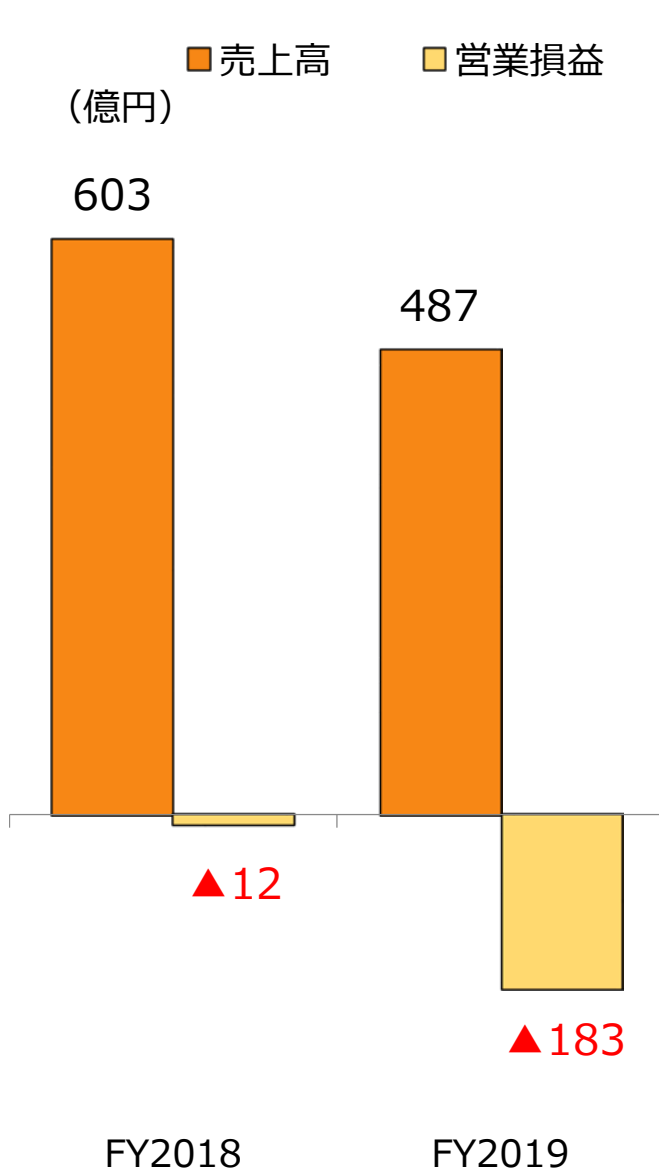
売上高

営業利益

- ✓ 生物顕微鏡：ハイエンド機種「FV3000」の拡販等により増収
- ✓ 産業製品：産業分野の市況が好調、電子部品向けの工業用顕微鏡、航空市場向けの工業用内視鏡等が好調に推移
- ✓ 増収および販管費のコントロールにより、大幅増益



2019年3月期 通期実績 ⑤映像事業



(単位：億円)	通期実績 (4-3月)				4Q実績 (1-3月)			
	FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後	FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後
売上高	603	487	▲19%	▲19%	130	103	▲20%	▲20%
ミラーレス	468	360	▲23%	▲23%	102	78	▲24%	▲23%
コンパクト	86	71	▲18%	▲17%	17	12	▲28%	▲28%
その他	49	56	+14%	+15%	11	13	+21%	+22%
営業損益	▲12	▲183	▲171億円	▲172億円	▲27	▲51	▲24億円	▲26億円
その他の損益*	▲13	▲79	-	-	▲13	▲11	-	-
営業利益率	-	-	-	-	-	-	-	-

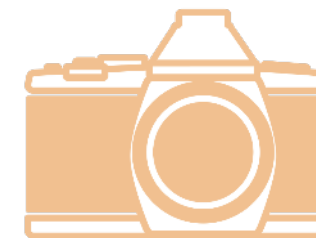
*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

売上高

- ✓ 生産拠点の再編に伴い、一部製品の供給に制約が生じた影響に加え、競争環境の激化もあり、減収

営業損益

- ✓ 減収および生産構造改革費用等により、損益が悪化



OLYMPUS

財政状態計算書

■ 有利子負債を666億円圧縮し、自己資本比率は47.3%

(単位：億円)	2018年 3月末	2019年 3月末	増減額
流動資産	5,143	4,560	▲583
棚卸資産	1,393	1,536	+143
非流動資産	4,644	4,760	+116
有形固定資産	1,682	1,769	+87
無形資産・その他	1,989	1,979	▲10
のれん	972	1,012	+40
資産 合計	9,787	9,320	▲466

	2018年 3月末	2019年 3月末	増減額
流動負債	3,059	2,875	▲184
社債及び借入金	888	597	▲291
非流動負債	2,285	2,021	▲264
社債及び借入金	1,592	1,216	▲376
資本	4,443	4,424	▲19
自己資本比率	45.2%	47.3%	+2.1 pt
負債及び資本 合計	9,787	9,320	▲466

有利子負債：1,813億円（2018年3月末比▲666億円）

連結キャッシュフロー計算書

- 証券訴訟の和解金等の支払いにより、フリーキャッシュフローは66億円のプラス

(単位：億円)	通期実績		増減
	2018年3月期	2019年3月期	
売上高	7,865	7,939	+74
営業利益	810	283	▲527
営業利益率	10.3%	3.6%	▲6.7pt
営業キャッシュフロー	951	669	▲282
投資キャッシュフロー	▲533	▲603	▲70
フリーキャッシュフロー	418	66	▲352
財務キャッシュフロー	▲511	▲829	▲319
現金及び現金同等物期末残高	1,912	1,146	▲767
減価償却費	529	587	+58
設備投資額	653	668	+16

2020年3月期 通期業績見通し

通期見通し ①連結業績

■ 一時費用の減少および販管費の抑制等により、営業利益は前年比約3倍となる900億円

(単位：億円)	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 通期見通し	増減	前年比	為替影響調整後 前年比
売上高	7,939	8,000	+61	+1%	+5%
売上総利益 (売上総利益率)	5,096 (64.2%)	5,080 (63.5%)	▲16	0%	+5% (64.1%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,375 (55.1%)	4,140 (51.8%)	▲235	▲5%	▲2% (51.3%)
その他の収益および費用等	▲438	▲40	-	-	-
営業利益 (営業利益率)	283 (3.6%)	900 (11.3%)	+617	+218%	+266% (12.4%)
税引前利益 (税引前利益率)	201 (2.5%)	860 (10.8%)			
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	81 (1.0%)	630 (7.9%)			
EPS	6円	46円			
円/USD	111円	105円			
円/Euro	128円	120円			

2020年3月期配当予想
 期末配当10円を予定*

通期見通し ②セグメント別業績

- 医療事業： 一時費用の減少等により、営業利益は1,350億円（為替影響調整後で前年比31%増）
- 映像事業： ベトナム工場への生産移管および新製品効果により、後半にブレークイーブンを見込む
- 全社・消去： 証券訴訟の和解金等の一時費用減少により、損益が改善

(単位：億円)

		2019年3月期 通期実績	2020年3月期 最新見通し	増減額	前年比	為替影響調整後 前年比
医療	売上高	6,343	6,370	+27	0%	+5%
	営業利益	1,119	1,350	+231	+21%	+31%
科学	売上高	1,042	1,060	+18	+2%	+6%
	営業利益	81	90	+8	+10%	+37%
映像	売上高	487	500	+13	+3%	+7%
	営業利益	▲183	▲70	+113	-	-
その他	売上高	67	70	+3	+5%	+5%
	営業利益	▲35	▲40	▲5	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	▲700	▲430	+270	-	-
合計	売上高	7,939	8,000	+61	+1%	+5%
	営業利益	283	900	+617	+218%	+266%

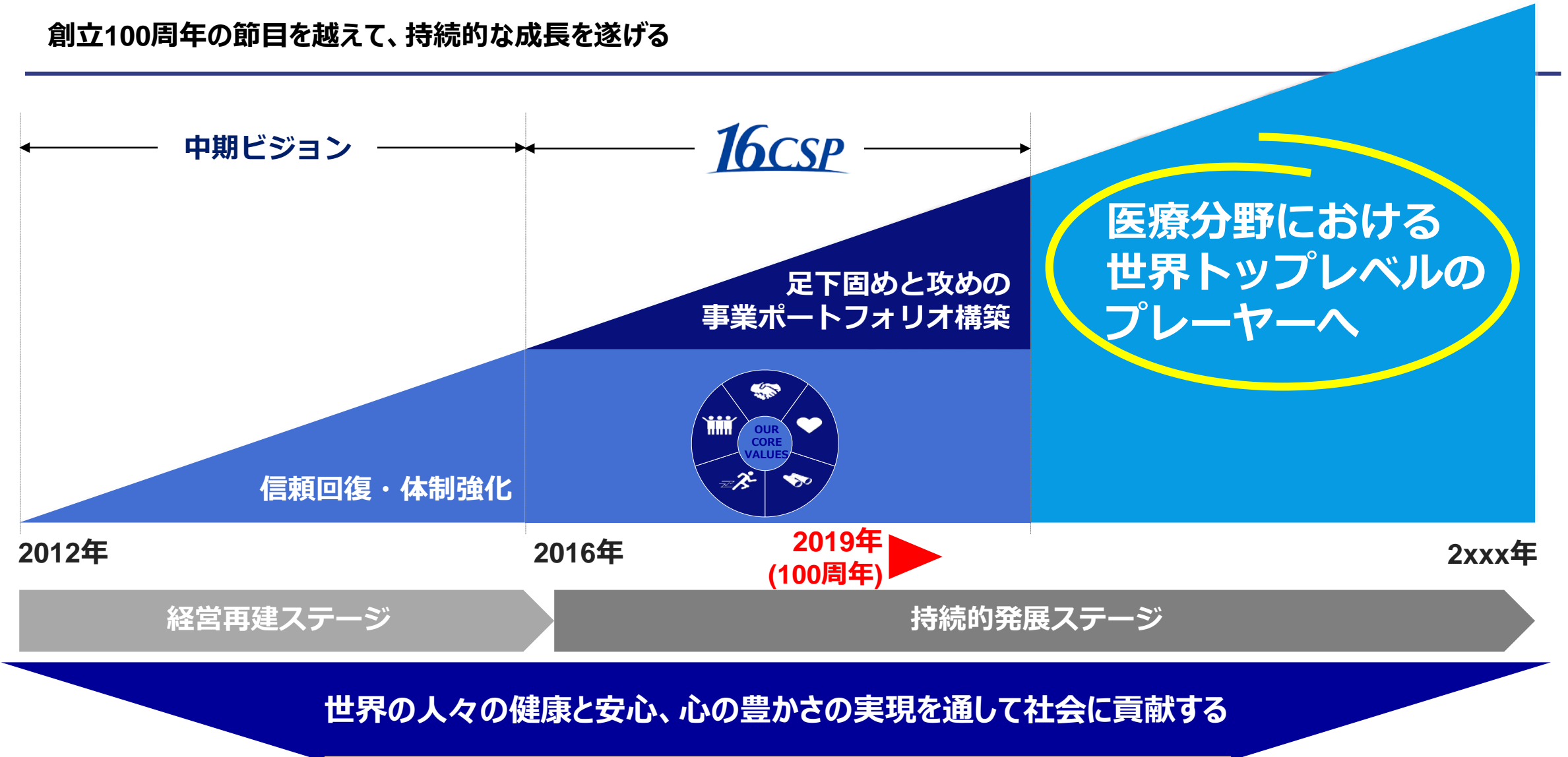
2020年3月期 経営方針

2019年5月10日
オリンパス株式会社
代表取締役社長執行役員兼CEO
竹内 康雄

真のグローバル・メディカル・テクノロジーカンパニー に向けた取り組み

これまで、そしてこれから

創立100周年の節目を越えて、持続的な成長を遂げる



“Transform Olympus”

グローバル医療機器企業に伍する…

1 : スピード



2 : 効率性

“真のグローバル・メディカル・テクノロジーカンパニー”



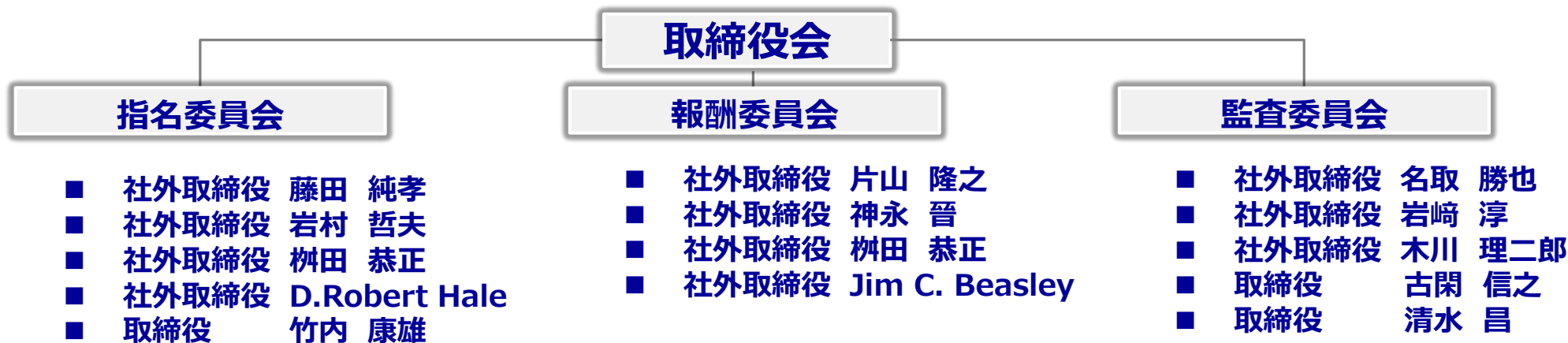
Sustainable

「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」に貢献し続ける企業

1. スピード：経営・事業スピードの向上

グローバルビジネスに即したガバナンス体制を実現

監
督



5名の経営執行責任者による迅速な意思決定

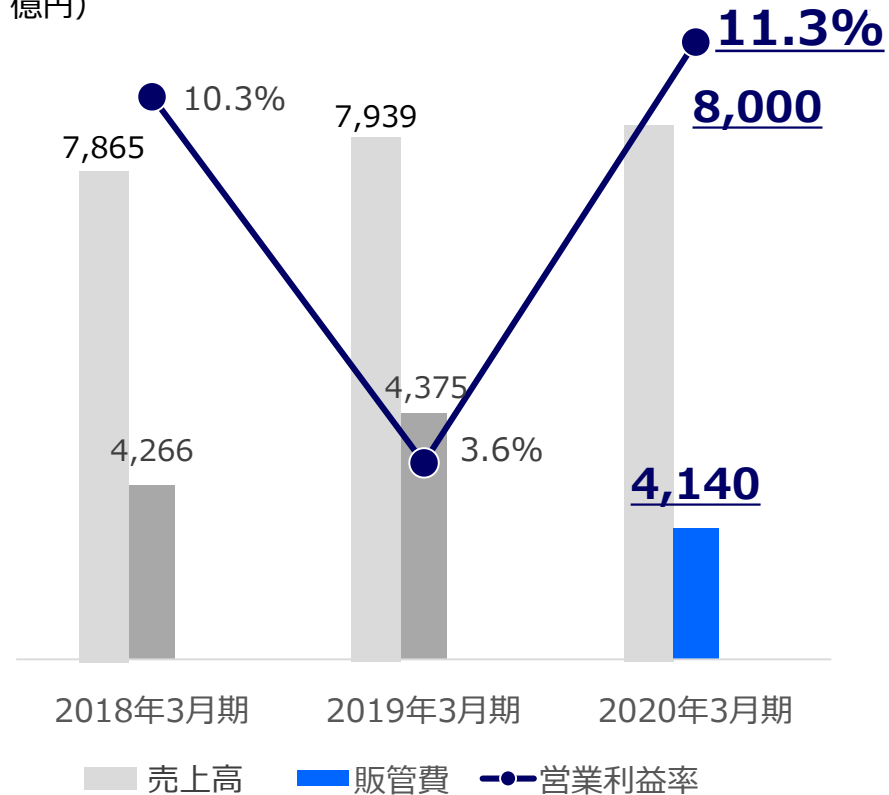
執
行



2. 効率性：2020年3月期 営業利益率の改善 1

販管費の抑制および売上高・営業利益の見通し

(単位：億円)



販管費を2018年3月期の水準まで圧縮することで営業利益率は大幅改善

2. 効率性：2020年3月期 営業利益率の改善 2

販管費の主な効率化策

研究開発

- ROIをベースに要素技術研究を中心としたテーマを優先順位付けし、研究開発費を効率化

[医療]

- ✓ 超長期テーマの見直し

[基盤研究]

- ✓ オープンイノベーションの推進、アライアンスの強化

コーポレート

- 人材を適所適材に配置し、リソースを最大活用

販管費を2018年3月期の水準まで圧縮することで営業利益率は大幅改善

※2020年以降の長期的な収益性および資本効率の改善計画は2020年3月期 上半期に策定し、公表予定

2020年3月期 事業運営方針

環境認識

- 早期診断・低侵襲治療へのニーズの高まりに大きな変化はない
- 法規制要求の高まりやリプロセス要求の高度化など、事業を取り巻く環境の変化が想定以上に加速
 - ✓ EU-MDR（欧州医療機器規制）や各国の医療機器申請・登録等の法規制要求の高まり
 - ✓ 米国を中心にリプロセス（洗浄・消毒・滅菌）要求が高度化
- AI、ロボティクス、ICT/IoT等の技術革新が急速に進展

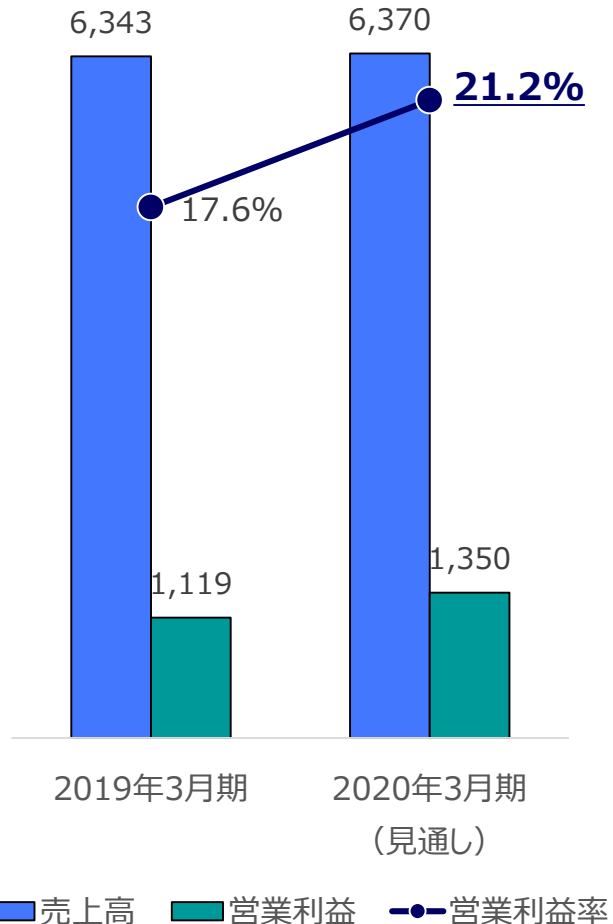


2020年3月期 基本方針

- Transform Olympus / Medicalの確実な遂行
 - ✓ グローバル・グループ経営基盤の整備と強化を進め、迅速な意思決定の実現、効率性の抜本的な向上
 - ✓ 医療事業の再編により、治療機器事業（Therapeutic Solutions Division）の成長を加速
→米国に軸足を据えた製品開発 / 手技開発推進体制の構築
- 患者の安全を高めるための製品品質の確保と法規制への確実な対応
- 急速な技術革新に即した新たな開発プロセスへの転換

売上高・営業利益

(億円)



2020年3月期 基本方針・戦略

- Transform Medicalの確実な遂行
- 費用効率化による収益性の大幅な改善

内視鏡事業：Endoscopic Solutions Division

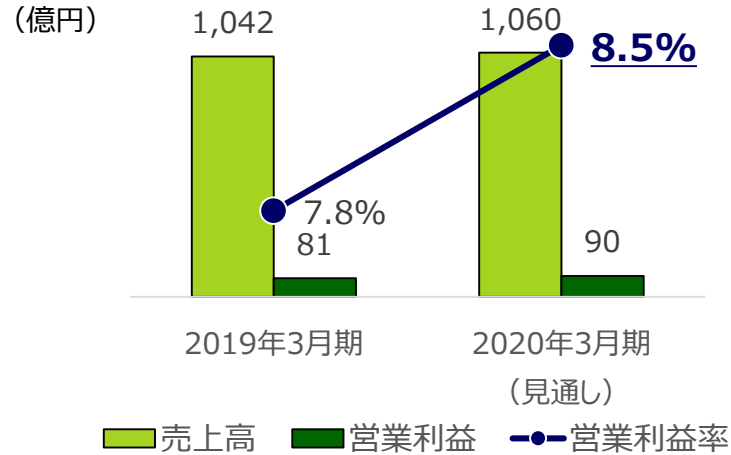
- 新製品の開発・市場導入
 - ✓ 消化器：十二指腸内視鏡、Power Spiral* 等
 - ✓ 外科：VISERA ELITE II北米導入、ORBEYE** 欧州導入 等
- 法規制やリプロセス（洗浄・消毒・滅菌）関連要求 への更なる対応強化

治療機器事業：Therapeutic Solutions Division

- 米国の事業統括拠点を中心とした事業基盤の構築
- ポートフォリオの拡充および差別化製品のタイムリーな導入



売上高・営業利益

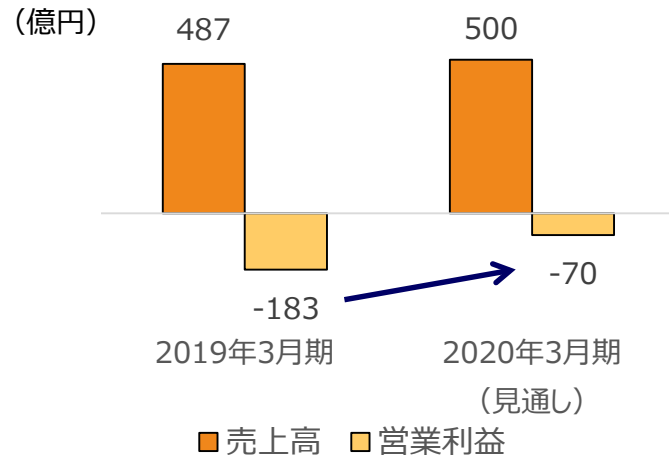


科学事業：2020年3月期 基本方針・戦略

- 10%以上の営業利益を安定的に確保するための事業体質を確立
 - ✓ ライフサイエンス分野の収益性改善
 - ✓ 産業分野の製品ポートフォリオ拡大および継続的成長

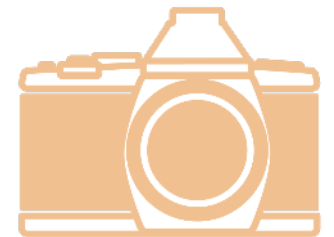


売上高・営業利益

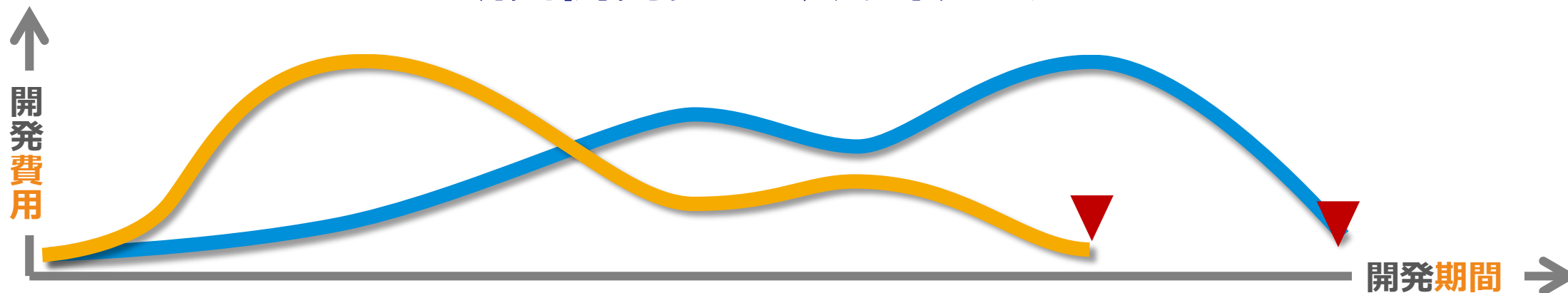


映像事業：2020年3月期 基本方針・戦略

- オリンパスブランドの強化と高付加価値ビジネスの推進
- 黒字化構造の定着に向けた費用コントロールの徹底
- 生産構造改革による生産性改善効果の最大化
 - ✓ 既存製品の生産効率の向上
 - ✓ 複数の新製品の立ち上げを確実に実行



研究開発プロセスのイメージ



従来 自前主義型研究開発

いわゆる研究開発／生産技術開発／商品開発を自前で積上げるため技術の差別化は図れるが長期的な開発に陥る傾向が強い

変革 フロントローディング型研究開発

フロントローディングで商品／サービスコンセプトを構築し、アライアンスやオープンイノベーションで必要技術を獲得する

次世代製品開発をフロントローディング型に転換し、
技術イノベーションに対応しつつ、開発スピードと効率性を向上させる

フロントローディング型研究開発の事例

科学

3D測定レーザー顕微鏡 OLS-5000



- ✓ フロントローディングの手法の一つであるシステムモデリングを導入
- ✓ システムの振る舞いや構造を可視化することで複雑なシステムを最適化

開発期間の大幅短縮・前機種欠点を克服

映像

ハイエンドミラーレス一眼 OM-D E-M1X



- ✓ モデルベース開発（MBD）等を用いて、製品開発前に徹底的にフロントローディングで前機種改良点をつぶし、厳しいプロの評価をクリア

開発段階での不具合85%減*、垂直立上げに成功

医療

長期の開発期間を要する製品開発にフロントローディングの手法を適用



- ✓ システムモデリング／モデルベース開発等の活用による
 - 商品／サービスコンセプト明確化
 - 仕様の最適化
 - 実装機能の最適化
 - 開発期間の大幅短縮
 - 商品ライフサイクルの最適化



20%の開発効率UP*を目論む

2020年3月期見通し ハイライト

営業利益率

↑ 前期比+7.7pt

11.3%

ROE

↑ 前期比+8pt以上

10%以上を確保*

EBITDA

↑ 前期比+77%

1,540億円

配当

↑ 前期比+33%

10円**

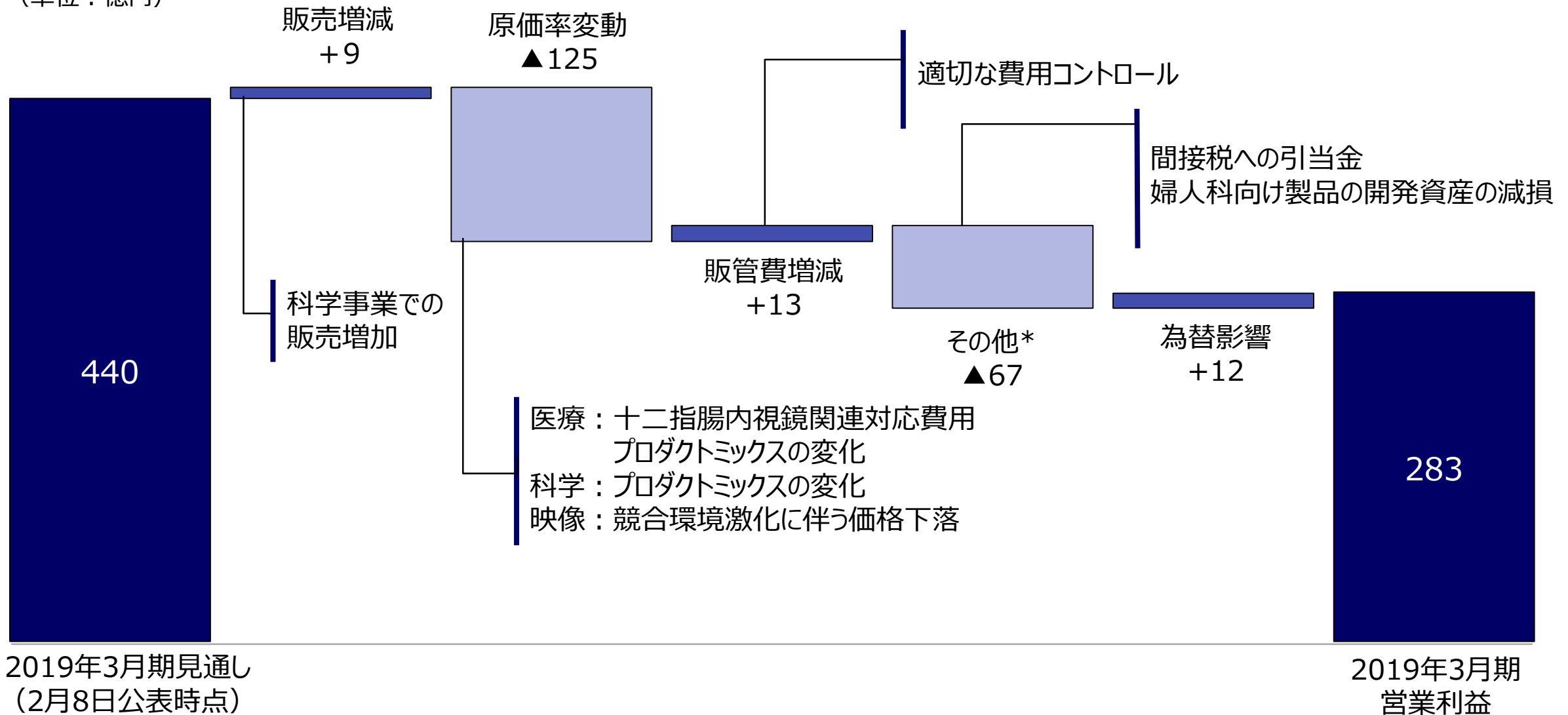
収益性および資本効率は大幅に向上する見通し

OLYMPUS

Appendix

【参考資料】2019年3月期 通期実績 連結営業利益増減要因 (対2月8日公表見通し)

(単位：億円)



【参考資料】医療事業の分野別・地域別 成長率

分野	地域	現地通貨別成長率				分野別の状況
		FY2018		FY2019		
		4Q	通期	4Q	通期	
消化器 内視鏡	日本	▲3%	▲2%	▲8%	▲6%	<ul style="list-style-type: none"> 日本：公的/公立病院を中心に予算獲得の厳しい状態は続いている一方、2018年3月期に導入した新スコープの売上は堅調 北米：セールスプロモーションやリースアップ製品の販売強化を図ったものの前年並みの水準 欧州：保守を含めた販売施策を継続し、堅調に推移 アジア・オセアニア：中国が成長を牽引
	北米	+7%	+1%	▲7%	0%	
	欧州	+7%	▲1%	▲3%	+2%	
	豪亜	+6%	+10%	+16%	+11%	
	全地域	+5%	+2%	▲1%	+2%	
外科	日本	+12%	+9%	▲3%	+4%	<ul style="list-style-type: none"> 日欧：主力システム「VISERA ELITE II」、エネルギーデバイスともに堅調に推移 北米：ISM社とのシナジーにより、4K外科内視鏡とシステムインテグレーションの販売が好調
	北米	+6%	+2%	+1%	+6%	
	欧州	▲6%	+6%	+3%	+6%	
	豪亜	+3%	+10%	+11%	+7%	
	全地域	+4%	+6%	+3%	+6%	
処置具	日本*	+3%	+7%	+2%	+1%	<ul style="list-style-type: none"> 全地域でプラス成長を確保 特に北米と、中国を中心としたアジア・オセアニアが好調
	北米	0%	+4%	+13%	+11%	
	欧州	+3%	+3%	+2%	+4%	
	豪亜	+8%	+16%	+18%	+12%	
	全地域*	+3%	+7%	+8%	+6%	

【参考資料】2019年3月期 通期実績 セグメント別その他の損益

(単位：億円)		FY2018					FY2019				
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
医療	売上高	1,344	1,548	1,580	1,691	6,163	1,439	1,617	1,588	1,699	6,343
	営業利益	232	322	324	340	1,218	274	273	318	254	1,119
	その他の損益	▲8	▲7	▲7	5	▲17	10	▲78	0	▲55	▲124
科学	売上高	200	246	254	300	1,000	211	262	259	310	1,042
	営業利益	▲6	18	23	29	64	▲4	32	22	32	81
	その他の損益	▲0	▲2	▲2	▲1	▲5	▲1	▲1	0	▲6	▲7
映像	売上高	151	154	167	130	603	139	118	127	103	487
	営業利益	9	7	▲1	▲27	▲12	▲58	▲34	▲39	▲51	▲183
	その他の損益	▲0	0	0	▲13	▲13	▲49	▲4	▲15	▲11	▲79
その他	売上高	23	27	25	24	99	17	16	18	16	67
	営業利益	▲5	▲7	▲16	▲21	▲50	▲7	▲7	▲9	▲13	▲35
	その他の損益	1	1	▲4	▲3	▲6	1	0	0	▲1	0
全社・消去	売上高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	営業利益	▲103	▲93	▲105	▲109	▲410	▲322	▲117	▲116	▲144	▲700
	その他の損益	3	6	▲7	11	13	▲210	▲4	▲4	▲15	▲233
連結合計	売上高	1,718	1,976	2,026	2,144	7,865	1,806	2,013	1,992	2,128	7,939
	営業利益	127	247	224	212	810	▲116	146	176	77	283
	その他の損益	▲5	▲1	▲21	▲1	▲28	▲250	▲87	▲19	▲87	▲444

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

【参考資料】中国生産子会社操業停止に伴う影響

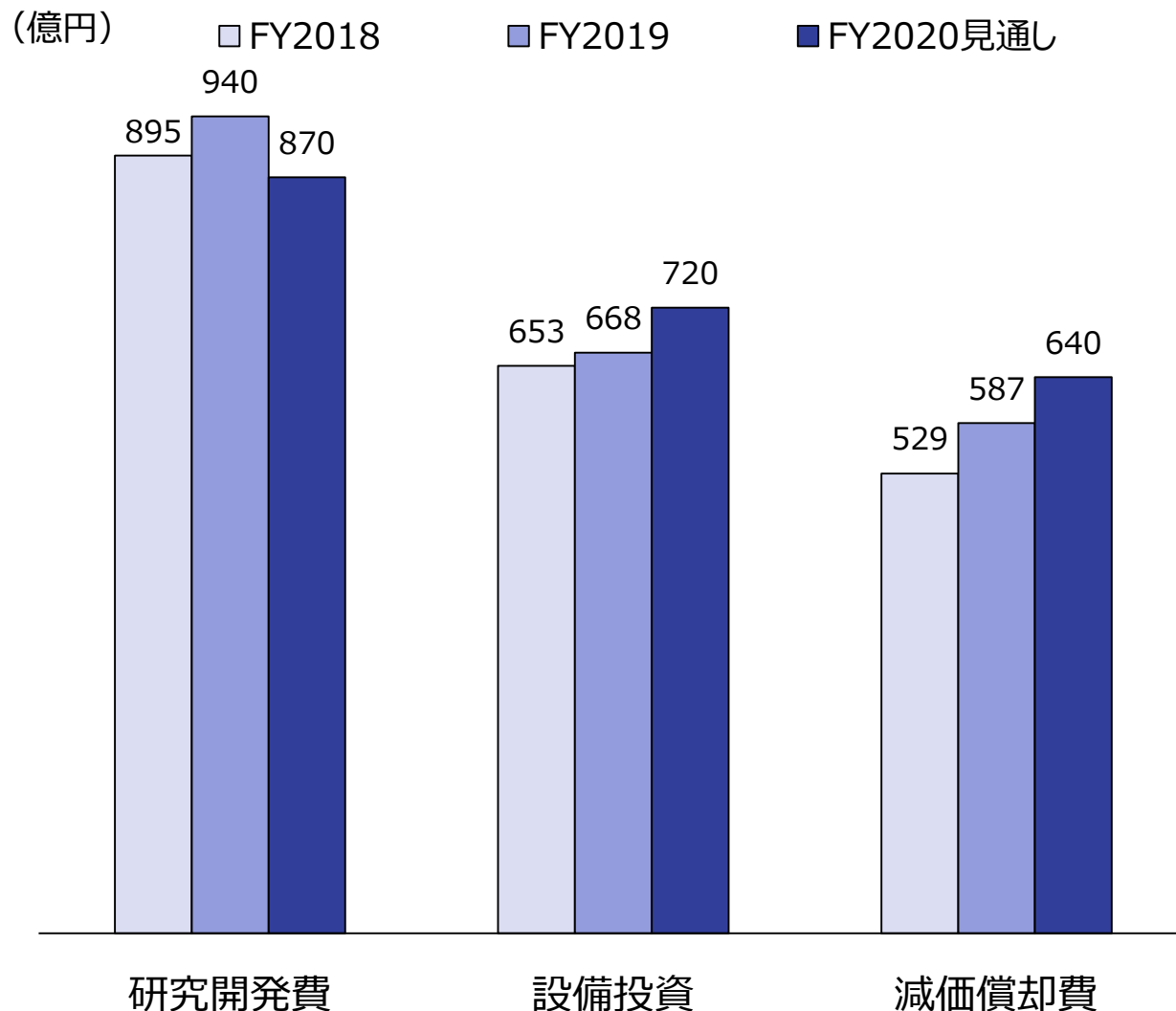
(単位：億円)

通期実績

	映像	科学	全社消去	合計	備考
粗利減	▲35			▲35	売上減少に伴う粗利減
販売管理費	▲11			▲11	ベトナム生産子会社への移管費用
その他の費用	▲53	▲2	▲8	▲63	経済補償金等
合計	▲99	▲2	▲8	▲109	

【参考資料】投資等（研究開発費、設備投資、減価償却費）

通期実績および見通し



研究開発費詳細

(単位：億円)

	FY2018(*1)	FY2019	FY2020 (見通し)
研究開発費 (対売上高比率)	895 (11.4%)	940 (11.8%)	870 (10.9%)

ご参考

(単位：億円)

	FY2018	FY2019	FY2020 (見通し)
開発費資産化(*2)	103	94	170
償却費	70	75	

2018年3月末 2019年3月末

開発資産残高	325	333
--------	-----	-----

- (*1) 研究開発費の集計方法変更に伴う影響を除いた金額。
 なお、集計方法変更に伴う影響を含めた金額は、941億円です。
- (*2) 開発費資産化の数値は上段の研究開発費に含まれています。

【参考資料】Transform Medical : 事業領域

内視鏡事業

Endoscopic Solutions Division



消化器科キャピタル製品



呼吸器科キャピタル製品



IT



リプロセス



システムインテグレーション



修理サービス



外科内視鏡キャピタル製品



手術用顕微鏡システム

治療機器事業

Therapeutic Solutions Division



消化器科呼吸器科関連処置具



エネルギー・デバイス、
その他外科用シングルユース製品



泌尿器科、婦人科製品



耳鼻咽喉科製品